

**広報**

# はまなす

**第83号**

(季刊冬号)

編集・発行

〒011-0946

秋田市土崎港中央4-4-26

医療法人 運忠会

TEL.018-845-4121

FAX.018-845-4140

Eメール:post@tsuchizakihp.or.jp

印刷:秋田協同印刷株式会社

## 高齢者の在宅介護と家族

土崎病院病院長 小野栄二

高齢化とともに、何らかの介護が必要となる時期が殆んどの人にやってきます。病気や怪我などで比較的若い前期高齢者のうちから介護を必要とする人もいれば、90歳を超えても殆んど介護を必要としない人など、人は様々ですが、概ね要介護者となります。

そこでどの様な介護をどこで、誰にしてもらうのかが大事な問題となります。自宅で家族に介護をしてもらひながら施設のディケアやディサービスを受けている人もいるでしょう。それに訪問介護を加えている人もいるでしょう。施設に入所して介護を受けている人も多数おります。国は数年前から介護は自宅で受ける事が望ましいとして、施設からの在宅復帰を推進してきました。在宅復帰と言っても住み慣れた我が家に帰るだけではなく、各種老人ホームや集合住宅などが含まれますが、住み慣れた我が家にずっと住んでいられるに越した事が有りません。しかし、自宅での家族構成がそれを難しくしているのです。

土崎病院が立地する土崎中央地区は、高齢化率が高く高齢者の一人世帯（いわゆる独居老人）か高齢者夫婦のみの世帯が非常に多いのです。子供がいても都会などの遠隔地に住んで、そこで仕事をしているので親の面倒を見たくても、離職して帰郷して同居する事は無理なのです。更に、定年間近でAターンしてこちらに仕事が見つかるかと言うと、これもとても難しいでしょう。もちろん、自宅で同居したり近くに住んで

親の介護をしている人も沢山います。

結局、独居が難しくなったり、老夫婦で老々介護が難しくなれば、自宅で暮らす事が難しくなります。現在よりも介護制度をもっと充実させても、24時間体制の自宅での介護は困難になると思われます。やがては施設に入所せざるを得なくなるでしょう。

昨秋政府は「介護離職ゼロ」政策を打ち出しました。親の介護の為に離職する人を無くすために、特別養護老人ホームを沢山増やし、介護制度を充実させる方針の様ですが、これまで進めてきた在宅介護はどの様になるのでしょうか。

これから介護を必要とする人がどんどん増え、介護をする人が大幅に不足すると心配されています。高齢者が介護を受けながら、本当に安心して余生を過ごせる社会を造る為の施策を国に希望したいと思います。



いんたらくていぶ

今年の干支は「猿」、読めば“目から鱗”が落ちるお話です

## 書もまた楽し その6

土崎病院友の会 会長 藤原 毅

新年おめでとうございます。会員の皆様とともに新年を寿ぎます。「書もまた楽し」もその6を数えることになりました。これまで文房四宝(書の筆、墨、硯、紙)について、ほんのサワリとこれに係るエピソードを述べました。今号は、半ば恒例となった今年の干支文字と申・猿に係る古事・諺に加えて12年ごとに巡ってくる「申年」の流行語(明治5年から平成4年まで)について適宜述べたいと思います。

今年は、「丙申年(へいしん・へのえさる)」です。申は十二支の九番目、方位は西から三十度南の西南西、時刻は現在の午後四時、またその前後二時間の申の刻と呼ばれております。

「申」という文字は、稻妻の形で、右と左に光が屈折している形を縦線の横に並べて「申」の字となったといわれております。因みに干支の動物「猿」の字は、「猿」が正字で「猿」は俗字といわれております。漢・魏の時代までは「猿」、唐・宋以降は「猿」を多く用いているようです。「申・猿」に関する古事・諺の多くは、単に表面の物真似をして失敗する、あこぎなことをして失敗することを戒しめるものが多いようです。「猿猴月を取る」猿が水に写った月を取ろうとして溺れ死んだことから、身のほど知らずの望みを持って失敗することの例え。「猿が髭を揉む」人が髭をなでる様を真似て、威厳をつくろう様をあざ笑つていう言葉。「猿の生き肝」クラゲが竜王の命令で猿の生き肝を取りに行き、猿を騙して連れ帰る途中、猿にうっかりその目的を洩らしたため、猿が生き肝を樹に忘れて来たから取りに行くと言い逆にクラゲが騙され逃げられた、クラゲはその罰として骨無しにされてしまった、という説話があります。

流行語は、時としてその年の出来事や世相を追想するのに役立つことがあります。◎明治5年(1872年)「文明開化の七つ道具」新聞、郵便、瓦斯灯、蒸気船、写真絵、博覧会、軽気球。◎明治17年(1884年)「改良」何んでも改良をつけた。例えば演劇改良、風俗改良、婦人改良など。◎明治29年(1896年)「二重まわし」男子の代表的な外套(トンビともいう)で防寒と中身のボロ隠しを兼ねるとあって人気があった。◎明治41年(1908年)「浮華軽佻(ふかけいちょう)」外面だけ華やかで実質のこと。◎大正9年(1920年)「示威運動」普通選挙の高まりで各地

でデモンストレーションが行われた。◎昭和7年(1932年)「話せばわかる」5.15事件で、犬養首相が反乱軍将校に対していた言葉。「チンドン屋」映画がトーキーの時代に入り、失業した弁士(カツベン)が街まわりのチンドン屋となつた。◎昭和19年(1944年)「集団疎開」小学生の3年生から6年生の学童が集団疎開して寺院や温泉旅館などを臨時の学校にした。他に「すいとん」や「松根油」などもある。◎昭和31年(1956年)「一億総白痴化」大宅壮一が低俗なテレビ番組ばかりで、これでは一億総白痴化と雑誌のコラムに書いた。他に「太陽族」「マネービル」などもある。◎昭和43年(1968年)「とめてくれるなおっかさん」大学紛争の中で全共闘派の学生たちの間で流行した。“とめてくれるなおっかさん 背中のいちょうが泣いている 男東大どこへ行く”東大駒場祭のポスターに書かれていたもの。他に「大きいことはいいことだ」「ゲバ棒」「ノンポリ」「ズッコケる」などもある。◎昭和55年(1980年)「それなりに」テレビのCMで、写真のプリントを頼みにきてとくに美しくと注文、店員は「美しい人はより美しく、そうでない方はそれなりに」とあしらわれるやり取りから。他に「カラスの勝手でしょ」などもある。◎平成4年(1992年)「ほめ殺し」右翼団体の妨害活動の常套句で相手のイメージダウントを図るために用いた。他に「きんさん、ぎんさん」などもある。以上が干支の年の流行語のサワリです。

「見ざる聞かざる言わざる」は処世訓の一つですが、私は「よく見、よく聞き、よく話をする」をモットーに日常を過ごしたいと思います。拙文をご一読いただき、ありがとうございました。

### <申と猿>



《勉強していま～す》 職員が研修で何を学び何を考えたかをご紹介します

## 全国介護老人保健施設大会に参加して

介護老人保健施設なぎさ 療養棟4階 介護主任 石黒 俊

平成27年9月2日～4日まで『第26回 全国介護老人保健施設大会 神奈川 in 横浜』がパシフィコ横浜にて開催されました。

今大会は『高齢者が輝く未来をお洒落に！スマートな連携！』がテーマです。大会当日は生憎の天気でしたが、全国から約5,400人が参加されました。9月2日の開会式の後は、パシフィコ横浜内にある会議センター、国立大ホール展示ホール、アナックスホールといった会場で、講演者として厚生労働省の方にご登壇いただいた特別講演やCYBERDYNE株式会社 代表取締役社長 CEOであり、筑波大学サイバニクス研究センター センター長 山海嘉之氏による特別講演など、介護に携わる人間にとっても大切な話を聞く機会をいただきました。また、市民公開講演では、元NHK理事待遇アナウンサー 松平定知氏や作家の林真理子氏にご登壇いただくなど、本当に充実した内容となっていました。

講演以外にも、演題発表、シンポジウム、ランチョンセミナーや機器展などが行われました。講演会等に参加する合間に『福祉・医療機器展』を覗いてみましたが、車いす、ベッドなどを始め、沢山の福祉・医療機器が展示されていました。こういった機器の発展は目覚ましいものがあり、これから迎える高齢化社会を支える一助となるのだろうな、と思いました。

今大会で各施設から多くの方が参加されました。この大会の講演や他施設の演題発表を聴講した内容を参考に、今後もより良いサービスを提供していきたいと思います。

次回は『めっちゃ好きやねん老健～咲かせよう 医療と介護の大輪の花～』をテーマに大阪で開催されます。



開会式の様子



小泉進次郎衆議院議員の講演



会場入口

《勉強していま～す》

職員が研修で何を学び何を考えたかをご紹介します

## 急変の早期発見・対応の研修に参加して

土崎病院 1病棟看護師 鈴木 千尋

今回は根拠をふまえた急変の早期発見や早期対応の仕方を学びたいと思い、看護協会主催の「アセスメントに活かす！！急変・重症患者に起こっている異変の根拠」というテーマで杏林大学医学部付属病院の道又元裕先生の講義を受講してきました。新人の時は急変になるといつもドキドキして先輩に相談しながら対応していましたが、看護師3年目になった今どうすればよいかすぐに考え、だんだん対応することができるようになってきました。しかしまだまだ未熟な面もあり、今回の研修で自分に足りないところを見つめ直しながら、急変を見つけられることができるように患者さんの観察の仕方、急変の対応の仕方について学ぶことができました。今回の研修では危機の構造や事例を用いて循環器疾患、呼吸器疾患、ショックについて根拠をふまえながらメカニズム、アセスメントについて学びました。アセスメントは外見、動作、バイタルサイン、栄養状態の4つの項目の正常値の比較と、患者さんの基準値を比較しながら、自分の感じた内容を次の観察に発展させていくことが大切で急変前は発言、表情も違うことがあります。周期的か突発的な観察も必要だということを学びました。いつも患者さんの援助に関わりながら観察していましたが、注意深く観察しないと見落とすこともあります。患者さんがどの疾患でどこを観察しなければいけないのか考えて行っています。今回の講義で自分が普段実行していることもいかに大切であるかという事が分かり、これからも継続していきたいと考えます。また、急変の対応から急変を作ってしまうこともあることを学びました。例えば心不全の患者さんでショックに陥った時の下肢の拳

上や心不全の患者さんを水平位でのストレッチャーの搬送は患者さんにとって負担になり、状態の悪化につながるので、根拠をふまえた看護がとても大事だという事も改めて実感することができました。

生命の危機に陥った時は迅速な対応が必要です。一次救命処置をし、スタッフの応援要請、ドクターの指示に基づいて適切な検査・処置を実施するという迅速な判断が必要なことはもちろん尚且つチームワークも必要であることを再確認出来ました。急変に遭遇したとき冷静になるという事は難しいと思いますが、少しでも落ち着いて対応できるように今回の研修で急変対応の一連をシミュレーションすることができ、対応力も向上したと思います。急変についてもっとも重要なエッセンスは患者さんの語れぬ、語らぬ声音を聴き理解することが大切であるということが分かりました。急変に気づくことのできる看護師になるためには根拠を理解した上で患者さんを意識して観察すること、なんか変だと疑問にもてる知識を習得することの大切さを学びました。患者さんの急変に気づくには患者さんとの信頼関係も必要で患者さんの会話の一つにも急変を予測される情報が隠れていることがあるため、患者さんが話しやすい環境づくりが必要です。院内では接遇に力をいれており、思いやりの心をこめて相手に接するようにしています。言葉遣いや対応に注意し、依頼されたことはできるだけすぐ対応できるように信頼関係を築いています。患者さんが安心して入院生活が送れるように努め、急変に限らず根拠のある看護を患者さんに提供できるようにこれからも知識・技術の向上に努めたいと思います。

### 医療法人 運忠会 土崎病院

病院長 小野 栄二

- 内科 ○呼吸器内科 ○消化器内科 ○血液内科
- 糖尿病・代謝内科 ○外科 ○心療内科
- 皮膚科 ○歯科 ○歯科口腔外科

秋田市土崎港中央四丁目 4-26

http://www.tsuchizakihp.or.jp post@tsuchizakihp.or.jp

- 健康診断・特定健診・人間ドック随時受付
- 生活習慣病予防健診を実施しております

**TEL : (018)-845-4121**

内科・外科	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ～ 12:00	●	●	●	●	●	(第2・4)	
午後 14:00 ～ 17:00	●	●	●	●	●		
※午後 外科予約制							

皮膚科	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ～ 12:00		●					

心療内科	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ～ 12:00		●	●	●	●		
午後 14:00 ～ 17:00	●						

(1月から月曜日の診療時間が午後に変更になります)

歯科	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ～ 12:00	●	●	●		●	●	
午後 14:00 ～ 18:00	●	●	●		●		

《院内行事報告》

## 第16回運忠会研究発表会を終えて

土崎病院 3病棟看護師 木村美由記

秋色日毎に深まりさわやかな秋晴れとなつた10月2日、第16回運忠会研究発表会が行われました。今年も秋田緑ヶ丘病院・三楽園・あまさぎ園より多くの方々がご参加くださいました。演題は計7題で、平成26年の診療報酬改定により当院でも新設された地域包括ケア病床や平成27年度の介護保険改定により地域包括ケアシステム構築が推進されていることもあり、それらに関連した発表が多くありました。また、教育講演は山中康生医師による「貧血について～鉄欠乏性貧血を中心に～」でした。

地域福祉部からの発表では当院における地域包括ケア病床の現状報告がされました。地域ケア病床の役割として、急性期からの患者受け入れ、在宅・生活復帰支援、在宅の緊急患者受け入れがあります。またこの病床には在宅復帰率70%以上、重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合が10%以上などの厳しい施設基準が設けられています。当院では病床稼働率は高いが在宅復帰率は新設されてまだ日が浅い為、今後改善が求められるとの事でした。なぎさ相談室からは地域包括ケアシステム構築の中、在宅復帰支援の強化が求められ、いかにスムーズに在宅復帰を進めるかという課題への取り組みが発表されました。地域包括支援システムとは団塊の世代が75歳以上になる2025年を目指して要介護状態となつても住み慣れた地域で暮らせるように住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムを築いていく事です。なぎさでは入所が長期化する利用者が多くなつてゐるため、サービス担当者会議に家族

も参加してもらい、在宅復帰に向けての目的・意欲を持っていただけるように地域での老人福祉施設の役割を説明し、在宅復帰支援パスを使用することで利用者に関わる他職種が情報の共有と入所から退所までの流れを明確にでき、在宅復帰につながった事例もあるとの事でした。

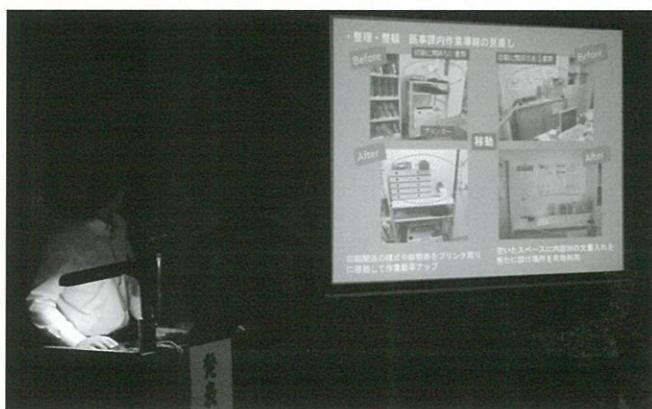
秋田県は全国高齢化率第1位で今年度33%を超みました。高齢者支援は我が県においてもスピードが求められる重要な課題の1つです。齢を重ねてもその人らしく生きられるよう、在宅であつても病院であつても他職種がシームレスに関わっていかなければならぬと学びました。研究発表会に参加し今年度も学び多き秋となり、今後の運忠会の発展につながるよう来年度の研究発表にも期待します。

### 第16回 運忠会研究発表会 プログラム

- |      |                             |   |
|------|-----------------------------|---|
| 発表1  | 5S活動の取り組み                   | (事務部 総務課) 山下修   |
| 発表2  | これからの地域包括ケア病床について           | (地域福祉部) 鈴木香織  |
| 発表3  | 在宅復帰支援への取り組み                | (なぎさ 相談室) 鈴木進悦  |
| 発表4  | 地域包括ケア病床に移行1年を迎えて:リハビリ科から見て | (リハビリ科) ○金子康史、大倉寛子                                      |
| 発表5  | 皮膚トラブルに関するヒヤリハット減少にむけての取り組み | (介護老人保健施設なぎさ 療養棟5階)<br>○安部里香、鈴木渉、芳野美智子                  |
| 発表6  | 継続した看護を提供するために              | (看護部 外来) ○山本由里子、駒井悦子、佐藤えみ子                              |
| 発表7  | 診療情報管理委員会の活動報告について          | (診療情報管理委員会) ○吉田千賀子、藤田智子、木村美由記、加藤洋子、高橋千春、山本由里子、渡邊圭子、志村道隆 |
| 教育講演 | 貧血について～鉄欠乏性貧血を中心に～          | (内科部長) 山中康生   |



会場風景



発表風景

## 青山御流いけはな展

土崎病院 医事課 副主任 伊藤 美紀

去る10月3日・4日、グループ法人の職員が行っている生け花教室の“青山御流いけはな展”が開催されました。

青山御流とは鎌倉時代から800年以上続いている流派です。私は、青山御流の活け方に魅了され、お稽古を始めて4年近くになります。枝の細部まで命を吹き込むかのように活け、活ける際に切り落とした「残花」も大切にするのが青山御流です。流派の心得として風雅の道は正道を守ること、礼儀・礼節を正す、など優美で格式を重んじるのが特徴です。

今回のいけはな展は『800年 王朝の花』と題し、ロンドンバスのある支援事業所クローバー2階ホールにて行われ、秋田教室の生徒17名が、季節のお花であるススキやケイトウ、ドウダン、ナンテンなど多くの花材を使い、約35点の作品

が展示されました。その他にも「残花」を大切にする流派ならではの会場作りで、お客様をお迎えする玄関から階段の隅々まで、ところ狭しとたくさんのお花で埋め尽くされました。

そのような準備を終え、迎えたいけはな展では、お客様が小さな作品まで、ひとつひとつ丁寧に鑑賞してくださる様子が、とても印象的で、いけはなの美しさを多くの方と共有することができました。

秋田教室で行われた、いけはな展は約10年ぶりと聞いてあります。青山御流をたくさんの方に知っていただけた絶好の機会でしたし、私自身も自分の活けた花を観ていただけたことで、これから活力に繋がった気がします。花への思いやりが人への思いやりと同じように、心して月一度のお稽古に励みたいと思います。



いけはな展 入口



田邊先生の作品



会場の様子



階段に飾られた作品



【四季折々】



紅葉弁当

## あとがき

朝晩の冷え込みが厳しくなり春の訪れが待ち遠しい今日この頃。

雪寄せの心配や風邪などの体調管理に気を遣う毎日、皆様いかがお過ごしでしょうか。

新年を迎え、私達編集委員一同も新たなる気持ちで、これからも地域の方々にとって魅力ある広報誌となるように今年も頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

(齊藤)